

第5章 母子保健事業などの機会を利用した事故防止

1. 母子保健事業を利用した事故防止の指導

政府の少子化社会対策大綱などにおいて、事故防止対策に取り組んでいる市町村の割合を平成21年までに100%にすることが目標値にかかげられている。このことより、母子保健事業を利用して保護者への指導を実施することが望ましい。

指導・啓発の機会として考えられるのは ①母子健康手帳交付 ②母親教室・両親学級 ③家庭訪問 ④3～4 か月児健診 ⑤9～10 か月児健診 ⑥1歳6 か月児健診 ⑦3歳児健診 ⑧育児教室・子育てサロンなどである。

これらの機会にどのような事故防止のための指導を実施するのか、事業の中での事故防止指導にさける時間、市町村の人手、会場などによると思われる。

ここでは、指導方法について事業毎に複数のメニューを提示してあるので最も効果的なメニューを選択するとよい。

事業名	指導方法	
母子健康手帳交付	メニュー1	「事故防止の必要性」のリーフレットを説明し配布
母親教室・両親学級	メニュー1	「事故防止の必要性」のリーフレットおよび「事故防止のポイント」のリーフレットを用いた事故防止指導
	メニュー2	「安全チェックリスト」を用いた事故防止指導
	メニュー3	「家庭内安全点検チェックリスト（ホームセーフティ100）」を用いた事故防止指導
	時間がまったく取れない場合の指導	
	メニュー4	「事故防止の必要性」のリーフレットおよび「事故防止のポイント」のリーフレットを説明し配布
家庭訪問	メニュー5	「家庭内安全点検チェックリスト（ホームセーフティ100）」の配布
	メニュー1	「事故防止の必要性」のリーフレットおよび「事故防止のポイント」のリーフレットを使用した指導
健康診査 3～4 か月児健診 9～10 か月児健診 1歳6 か月児健診 3歳児健診	メニュー2	「家庭内安全点検チェックリスト（ホームセーフティ100）」を用いた事故防止指導
	メニュー1	「事故防止の必要性」のリーフレットおよび「事故防止のポイント」のリーフレットを用いた事故防止指導
	メニュー2	「安全チェックリスト」を用いた事故防止指導
	メニュー3	「家庭内の絵」を用いた事故防止指導
育児教室・子育てサロン	時間がまったく取れない場合の指導	
	メニュー4	「事故防止の必要性」のリーフレットおよび「事故防止のポイント」のリーフレットを説明し配布
	メニュー1	「家庭内の絵」を用いた事故防止指導
	メニュー2	「事故防止の必要性」のリーフレットおよび「事故防止のポイント」のリーフレットを用いた事故防止指導
	メニュー3	「安全チェックリスト」を用いた事故防止指導

指導リーフレット等は第8章にまとめて提示してあるので、必要に応じて国立保健医療科学院のホームページ (<http://www.niph.go.jp>) からダウンロードし、コピーまたは印刷して使用してください。

2. 母子健康手帳交付

1) 指導メニュー

メニュー1. 「事故防止の必要性」のリーフレットを説明し配布

2) 指導方法

メニュー1. 「事故防止の必要性」のリーフレットおよび「事故防止のポイント」のリーフレットの配布

指 導 方 法	指 導 時 の ポ イ ン ト
1. 「事故防止の必要性」のリーフレットを一声かけて配布を行う。	*リーフレットを配布するだけでは保護者に読んでもらえないなど指導効果が十分ではないので、「子どもの事故の大部分は、大人が気配りをすることで防ぐことができるので、出産の準備にあたって事故防止も踏まえた環境整備をしておいてください」と事故防止の重要性を一声かけて配布する。

3) 指導意義と課題

母子健康手帳の交付時は妊婦が行政機関と関わりを持つ最初の時でもあるので、妊娠中の母体保護と合わせて子どもの事故防止に関心を持ってもらう機会としたい。

母子健康手帳交付の窓口は事務職員が担当することが多く、また交付時に保健指導の時間を取りにくく、事故防止指導を行うことは難しい。

以上のことより、リーフレット等の配布による指導が多くなると考えられるが、ただ配布するだけでは母子健康手帳申請者が誕生後の子どもの事故防止の重要性を理解できず、リーフレット等を読んでもらえない可能性が高いと思われるので、子どもの事故防止が重要であることについて一声かけることが有効な方法と考えられる。

また、保健師などによる事故防止の指導が可能であれば、配布のリーフレットなどを使用して指導することが望ましい。

3. 母親教室・両親学級

1) 指導メニュー

メニュー1. 「事故防止の必要性」のリーフレットおよび「事故防止のポイント」のリーフレットを用いた事故防止指導

メニュー2. 「安全チェックリスト」を用いた事故防止指導

メニュー3. 「家庭内安全点検チェックリスト（ホームセーフティ100）」のリーフレットを用いた事故防止指導

時間がまったく取れない場合の指導

メニュー4. 「事故防止の必要性」のリーフレットおよび「事故防止のポイント」のリーフレットを説明し配布

メニュー5. 「家庭内安全点検チェックリスト（ホームセーフティ100）」の配布

2) 指導方法

メニュー1. 「事故防止の必要性」のリーフレットおよび「事故防止のポイント」のリーフレットを使用した指導

指 導 方 法	指 導 時 の ポ イ ン ト
1. 「事故防止の必要性」のリーフレットを用いて指導を行う。	*多くの子どもが事故により医療機関を受診しているため、事故にあわないため

<p>2. 「事故防止のポイント」のリーフレットを用いて指導する。</p>	<p>の防止方法を知っておくことが必要であることを知らせる。</p> <p>* 事故を経験した保護者の 80%以上が少しの気配りで防止が可能だったと答えているので、大部分の事故は少しの気配りで防げることを説明する。</p> <p>* 事故は子どもの発達と密接な関係があるので、子どもの発達と事故について知識を得て対応することが必要であることを理解してもらう。</p> <p>* 3～4か月健診時まで起こる主な事故とその防止法が書いてあるので、気配りが不足しがちな項目や重大な事故につながる項目は、事例を挙げて説明を行う。</p> <p>* 家庭にリーフレットを持ち帰ったら、父親や祖父母などにも確認をしてもらうよう促す。</p> <p>* 指導時間などにより、詳細な説明が行えない場合は、帰宅後リーフレットは必ず目を通し、確認をすることを勧める。</p>
---------------------------------------	---

メニュー2. 「安全チェックリスト」を用いた事故防止指導

指 導 方 法	指 導 時 の ポ イ ン ト
<p>1. 保護者が「安全チェックリスト」の記入を行う。</p> <p>記入方法 (i) 事前に自宅で記入</p> <p>(ii) 当日会場で記入</p>	<p>* 「安全チェックリスト」は3～4か月健診時まで起こる主な事故の防止方法が記載されている。</p> <p>※項目ごとに保護者の事故防止について気配りが低い場合は右側に印がつくように作成されているので、気配りが不足している項目が一目でわかる。</p> <p>* 安全チェックリストへの記入方法には (i) 自宅、(ii) 会場、(iii) 帰宅後の3つの方法があるので、実施可能な方法での記入を依頼する。</p> <p>* 予約時「安全チェックリスト」を事前に配布し、自宅で記入してもらい、会場へ持参してもらう。</p> <p>* この方法は、事故防止について十分に考えながら記入することができ、指導時間を有効に使用できるので望ましい。</p> <p>* 事前に「安全チェックリスト」を配布で</p>

<p>(iii)帰宅後、自宅で記入</p> <p>2. 「事故防止の必要性」のリーフレットを用いて指導する。</p> <p>3. 保護者が記入した「安全チェックリスト」を基に、事故防止の気配りが不足している項目を「事故防止のポイント」のリーフレットを用いて指導を行う。</p>	<p>きなかった場合、待ち時間等を利用し記入してもらおう。</p> <p>*この方法は、チェック項目についてゆっくり考えながら記入できない点などがあり、会場での記入を行う場合には記入しやすい環境設定の配慮が必要である。</p> <p>*教室時に記入することができない場合、教室後自宅でチェックを行い、気配りが不足している項目を把握し、事故防止に努めてもらうように促す。</p> <p>*この方法は、チェック結果（個々の事故防止の不足項目）が会場での指導に活かさない欠点がある。</p> <p>*多くの子どもが事故により医療機関を受診しているため、事故にあわないための防止方法を知っておくことが必要であることを知らせる。</p> <p>*事故を経験した保護者の80%以上が少しの気配りで防止が可能だったと答えているため、大部分の事故は少しの気配りで防げることを説明する。</p> <p>*事故は子どもの発達と密接な関係があるため、子どもの発達と事故について知識を得て対応することが必要であることを理解してもらおう。</p> <p>*「事故防止のポイント」のリーフレットは3～4か月健診時まで起こる主な事故とその防止法が書いてあるので、「安全チェックリスト」を実施した結果、気配りが不足していた項目や重大な事故につながる項目は、事例を挙げて防止方法の説明を行う。</p> <p>*家庭にリーフレットを持ち帰ったら、父親や祖父母などにも確認をしてもらうよう促す。</p> <p>*時間が余りとれない場合は、「安全チェックリスト」を実施した結果、気配りが不足していた項目に対応する「事故防止のポイント」のリーフレットの解説部分に印を付けるなどして、帰宅後必ず読んで事故防止に配慮してもらうよう指導する。</p> <p>*「安全チェックリスト」を帰宅後に記入</p>
--	--

	を行う場合は、「事故防止のポイント」を全般的に指導し、帰宅後自己学習してもらうよう指導する。
--	--

メニュー3. 「家庭内安全点検チェックリスト (ホームセーフティ100)」を用いた事故防止指導

指導方法	指導時のポイント
1. 「家庭内安全点検チェックリスト (ホームセーフティ100)」の配布を行う。	<ul style="list-style-type: none"> * 子どもが誕生するまでに家の中の環境を安全に整えることが必要であることを一声かけて配布し、帰宅後、家族と一緒に安全点検をしてもらう。 * 里帰り出産を行う場合、祖父母にも確認をしてもらう。

時間がまったく取れない場合の指導

メニュー4. 「事故防止の必要性」のリーフレットおよび「事故防止のポイント」のリーフレットを説明し配布

指導方法	指導時のポイント
1. 「事故防止の必要性」のリーフレットおよび「事故防止のポイント」のリーフレットを一声かけて配布を行う。	* リーフレットを配布するだけでは保護者に読んでももらえないなど指導効果が十分ではないので、「子どもの事故の大部分は、大人が気配りをする事で防ぐことができるので、出産の準備にあたって事故防止も踏まえた環境整備をしていって下さい」と事故防止の重要性を一声かけて配布する。

メニュー5. 「家庭内安全点検チェックリスト (ホームセーフティ100)」の配布

指導方法	指導時のポイント
1. 「家庭内安全点検チェックリスト (ホームセーフティ100)」を一声かけて配布を行う。	* 子どもが誕生するまでに家の中の環境を安全に整えることが必要であることを一声かけて配布する。

3) 指導意義と課題

安定期の妊婦が参加することが多く、この時期は子どもの誕生に向けて家庭内の環境整備を始めるころである。

母親教室・両親学級においては、出生後の健診に比べ比較的時間を取りやすいので、この機会に事故防止の指導を行うとよい。

ただ、子どもの出生や子育てに期待と同時に不安も大きいと思われるので、余り恐怖心を持たせるような指導にならないように留意し、子どもの発達を理解し、少しの準備と気配りで防ぐことができることを話すとよい。

出生前に子どもの事故防止を理解してもらっておくことにより、今後の健診時の事故防止指導が容易になるとと思われるので、是非子どもの事故防止の指導を母親教室に加えるべきである。

可能ならメニュー3のチェックリストを用いた指導が望ましい。

上記のメニュー以外にも、会場に事故防止の啓発パネル、事故を防止するための安全グッズの展示や事故防止のビデオの放映などを併用して行う方法もある。

4. 家庭訪問

1) 指導メニュー

メニュー1. 「事故防止の必要性」のリーフレットおよび「事故防止のポイント」のリーフレットを使用した指導

メニュー2. 「家庭内安全点検チェックリスト（ホームセーフティー100）」を用いた事故防止指導

2) 指導方法

メニュー1. 「事故防止の必要性」のリーフレットおよび「事故防止のポイント」のリーフレットを使用した指導

指 導 方 法	指 導 時 の ポ イ ン ト
1. 「事故防止の必要性」のリーフレットを用いて指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> * 多くの子どもが事故により医療機関を受診しているので、事故にあわないための防止方法を知っておくことが必要であることを知らせる。 * 事故を経験した保護者の80%以上が少しの気配りで防止が可能だったと答えているので、大部分の事故は少しの気配りで防げることを説明する。 * 事故は子どもの発達と密接な関係があるので、子どもの発達と事故について知識を得て対応することが必要であることを理解してもらう。 * 虐待が疑われる家庭への訪問では、この事故防止のリーフレットを利用し、事故防止の話から導入することにより、虐待への介入するきっかけとなりやすい。
2. 「事故防止のポイント」のリーフレットを用いて指導する。	<ul style="list-style-type: none"> * 次の健診時まで起こる主な事故とその防止法が書いてあるので、気配りが不足しがちな項目や重大な事故につながる項目は、事例を挙げて説明を行う。 * 父親や祖父母などにも確認をしてもらうよう促す。 * 指導時間などにより、詳細な説明が行えない場合は、リーフレットは必ず目を通し、自身で項目ごとに確認をすることを勧める。

メニュー2.「家庭内安全点検チェックリスト（ホームセーフティ100）」を用いた事故防止指導

指 導 方 法	指 導 時 の ポ イ ン ト
1.「家庭内安全点検チェックリスト（ホームセーフティ100）」を用いて指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> * 小さい子どもの事故の多くは家庭内で発生しているので、家の中の環境を安全に整えることが必要であることを一声かけて配布する。 * 訪問者が「家庭内安全点検チェックリスト」を使用し、保護者と一緒に危険箇所をチェックして、防止策をアドバイスすることが望ましい。 * 家の中を見られることを望まないようであれば、家族で「チェックリスト」を使用して安全点検を行ってもらおうよう勧める。

3) 指導意義と課題

家庭訪問は育児の場を把握し、実態に即した指導ができる絶好の機会である。新生児訪問など家庭訪問した際には家庭内の環境を点検しながら事故防止について説明するとよい。

また、虐待調査のために家庭訪問する際にも、子どもの事故防止の話から虐待がないのかを調べる導入にもよいと思われる。

これらの家庭訪問において、小さい子どもの事故は家庭内で発生しており、家庭内の環境整備と生活行動の改善など少しの気配りにより大部分は防げることを話す。

家族が望み、訪問者が時間が割けるなら、一緒に家庭内の安全点検をするとよい。

ただ、人によっては他人に家庭内を見られるのに抵抗感のある人もあることに留意する。両親以外に同居している家族にも事故防止について協力を依頼する必要があることも話すとよい。

可能なら、メニュー1とメニュー2を組み合わせて指導することが望ましい。

5. 3～4か月児健診、9～10か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診

1) 指導メニュー

メニュー1.「事故防止の必要性」のリーフレットおよび「事故防止のポイント」のリーフレットを用いた事故防止指導

メニュー2.「安全チェックリスト」を用いた事故防止指導

メニュー3.「家庭内の絵」を用いた事故防止指導

時間がまったく取れない場合の指導

メニュー4.「事故防止の必要性」のリーフレットおよび「事故防止のポイント」のリーフレットを説明し配布

2) 指導方法

メニュー1.「事故防止の必要性」のリーフレットおよび「事故防止のポイント」のリーフレットを使用した指導

指 導 方 法	指 導 時 の ポ イ ン ト
3. 「事故防止の必要性」のリーフレットを用	* 多くの子どもが事故により医療機関を

<p>いて指導を行う。</p> <p>4. 「事故防止のポイント」のリーフレットを用いて指導する。</p>	<p>受診しているので、事故にあわないための防止方法を知っておくことが必要であることを知らせる。</p> <p>* 事故を経験した保護者の 80%以上が少しの気配りで防止が可能だったと答えているので、大部分の事故は少しの気配りで防げることを説明する。</p> <p>* 事故は子どもの発達と密接な関係があるので、子どもの発達と事故について知識を得て対応することが必要であることを理解してもらう。</p> <p>* 次の健診時までに起こる主な事故とその防止法が書いてあるので、気配りが不足しがちな項目や重大な事故につながる項目は、丁寧に事例を挙げて説明を行う。</p> <p>* 家庭にリーフレットを持ち帰ったら、父親や祖父母などにも確認をしてもらうよう促す。</p> <p>* 指導時間などにより、詳細な説明が行えない場合は、帰宅後リーフレットは必ず目を通し、確認をすることを勧める。</p>
---	--

メニュー2. 「安全チェックリスト」を用いた事故防止指導

指 導 方 法	指 導 時 の ポ イ ン ト
<p>1. 保護者が「安全チェックリスト」の記入を行う。</p> <p>記入方法 (i) 事前に自宅で記入</p> <p>(ii) 当日会場で記入</p>	<p>* 「安全チェックリスト」は次の健診時までに起こる主な事故の防止方法が記載されている。</p> <p>※ 各項目に保護者の事故防止について気配りが低い場合は右側に印がつくように作成されているので、気配りが不足している項目が一目でわかる。</p> <p>* 安全チェックリストへの記入方法には (i) 自宅、(ii) 会場、(iii) 帰宅後の3つの方法があるので、実施しやすい方法での記入を依頼する。</p> <p>* 健診の案内と一緒に「安全チェックリスト」を郵送し、自宅で記入してもらい、健診会場へ持参してもらう。</p> <p>* この方法は、事故防止について十分に考えながら記入することができ、指導時間を有効に使用できるので望ましい。</p> <p>* 郵送等で事前にチェックリストが送付</p>

<p>(iii)帰宅後、自宅で記入</p> <p>2. 「事故防止の必要性」のリーフレットを用いて指導する。</p> <p>3. 保護者が記入した「安全チェックリスト」を基に、事故防止の気配りが不足している項目を「事故防止のポイント」のリーフレットを用いて指導を行う。</p>	<p>できなかつた場合、待ち時間に記入してもらう。</p> <p>*この方法は、健診会場で子どもを抱きながら記入しなければならないなど、子どもに気を取られ、チェック項目についてゆっくり考えながら記入できない欠点があり、会場での記入を行う場合には記入しやすい環境設定の配慮が必要である。</p> <p>*健診時に記入することができない場合、健診後自宅でチェックを行い、気配りが不足している項目を把握し、事故防止に努めてもらうように促す。</p> <p>*この方法は、チェック結果（個々の事故防止の不足項目）が会場での指導に活かさない欠点がある。</p> <p>*多くの子どもが事故により医療機関を受診しているため、事故にあわないための防止方法を知っておくことが必要であることを知らせる。</p> <p>*事故を経験した保護者の80%以上が少しの気配りで防止が可能だったと答えているため、大部分の事故は少しの気配りで防げることを説明する。</p> <p>*事故は子どもの発達と密接な関係があるため、子どもの発達と事故について知識を得て対応することが必要であることを理解してもらう。</p> <p>*「事故防止のポイント」のリーフレットは次の健診時まで起こる主な事故とその防止法が書いてあるので、「安全チェックリスト」を実施した結果、気配りが不足していた項目や重大な事故につながる項目は、事例を挙げて防止方法の説明を行う。</p> <p>*家庭にリーフレットを持ち帰ったら、父親や祖父母などにも確認をしてもらうよう促す。</p> <p>*時間が余りとれない場合は、「安全チェックリスト」を実施した結果、気配りが不足していた項目に対応する「事故防止のポイント」のリーフレットの解説部分に印を付けるなどして、帰宅後必ず読ん</p>
--	--

	<p>で事故防止に配慮してもらうよう指導する。</p> <p>*「安全チェックリスト」を帰宅後に記入を行う場合は、「事故防止のポイント」を全般的に指導し、帰宅後自己学習してもらうよう指導する。</p>
--	--

メニュー3.「家庭内の絵」を用いた事故防止指導

指導方法	指導時のポイント
2. 「家庭内の絵」を見ながら保護者に子どもにとって危険な箇所を指摘してもらう。	<p>*保護者を一方的に指導するのではなく、保護者に「家庭内の絵」を見てもらい、危険箇所を指摘してもらい合いながら、子どもに安全な環境について互いに話し考えてもらう参加型の指導を行っていく。</p> <p>*事件事例などを交えて、具体的な防止方法などの意見を引き出し、話し合ってもらおう。</p>
(i)居間	<p>誤飲・・・テーブルの上のクリップやコイン (A)、タバコや灰皿 (B)、ボタン電池 (C)</p> <p>やけど・・・アイロン (D)、ストーブ (E)、コーヒーカップ (F)</p> <p>窒息・・・ベビーベッドとマットのすき間 (G)、ぬいぐるみ (H)</p> <p>転落・・・ソファ (I)、ベッドの柵 (J)</p> <p>感電・・・コンセント (K)</p> <p>はさむ・・・ドア (L)、ビデオデッキの出入口 (M)、ビデオの収納台の扉 (N)、</p> <p>切創・・・はさみ (O)</p> <p>転倒・・・テーブルの角 (P)</p>
(ii)洗面所・浴室	<p>誤飲・・・洗剤 (A)、化粧品 (B)</p> <p>溺水・・・浴槽 (C)、椅子 (D)、洗面器 (E)、洗濯機 (F)</p> <p>転倒・・・浴室の床 (G)</p> <p>切創・・・カミソリ (H)</p> <p>やけど・・・蛇口 (I)</p> <p>はさむ・・・ドア (J)</p>
(iii)ベランダ	<p>転落・・・クーラーボックス (A)、植木鉢 (B)、ポリタンク (C)</p> <p>窒息・・・カーテンの紐 (D)</p> <p>はさむ・・・引き戸 (E)</p>
(iv)台所・食堂	<p>やけど・・・コンロ (A)、コンロの上の鍋ややかん (B)、食卓の上のラーメン・味噌汁・コーヒー (C)、ポット (D)、炊飯器の蒸気口 (E)、テーブルクロスを引っ張る (F)</p> <p>切傷・・・包丁 (G)</p> <p>打撲・・・ビンが床に落ちる (H)</p> <p>窒息・・・スーパーの袋 (I)</p> <p>誤飲・・・洗剤 (J)、薬 (K)</p>

(v) 玄関・階段	転落・・・玄関の段差 (A)、階段 (B) 転倒・・・じゅうたん (C)
-----------	---

時間がまったく取れない場合の指導

メニュー4. 「事故防止の必要性」のリーフレットおよび「事故防止のポイント」のリーフレットを説明し配布

指導方法	指導時のポイント
1. 「事故防止の必要性」のリーフレットおよび「事故防止のポイント」のリーフレットを一声かけて配布を行う。	*リーフレットを配布するだけでは保護者に読んでもらえないなど指導効果が十分ではないので、「子どもの事故の大部分は、大人が気配りをすることで防ぐことができるので、事故防止は大切である」ということを必ず一声かけて配布する。

3) 指導意義と課題

子どもの事故は発達と関係があり、健診が発達の節目毎にあることから、事故防止を指導する場として望ましい。また、多くの保護者が健診を受診しており、この意味でも適している。

ただ、保護者の関心は子どもの発育・発達が順調であるのかになりがちで、事故防止には関心が低い可能性があるため、事故防止の必要性を十分に理解してもらうことが大切である。

また、事故防止について全般的に説明する方法もあるが、チェックリストより個人の事故防止について気配りの少ない点を明らかにしての指導がより効果的と考えられる。以上のことより、チェックリストを使用して指導することが最も望ましいと考えられる。

会場で安全チェックリストの記入は、子どもの世話をしながらになり、ただ記入のみとなり子どもの事故について十分に考えられないので、事前に郵送して記入し持参する方法が望ましい。

指導は集団でも個人指導でもよいが、チェックリストの記入結果を基に保護者指導することが望ましい。

時間や人手の関係などにより、指導が十分にできない場合は気配りが不足しているものは右側に印がつくように工夫され、事故防止のポイントのリーフレットもチェックリストと同じ番号となっているので、印をつけるなどしてその項目を必ず読んで実行してもらうように指導するとよい。

また、チェックリストへの記入がどうしてもできない場合には、帰宅後自身による自己点検をし、リーフレットより事故防止について理解し、事故にあわないように対応してもらう。

上記のメニュー以外にも、会場に事故防止の啓発パネル、事故を防止するための安全グッズの展示や事故防止のビデオの放映などを併用して行う方法もある。

6. 育児教室、子育てサロン

1) 指導メニュー

メニュー1. 「家庭内の絵」を用いた事故防止指導

メニュー2. 「事故防止の必要性」のリーフレットおよび「事故防止のポイント」のリーフレットを用いた事故防止指導

メニュー3. 「安全チェックリスト」を用いた事故防止指導

2) 指導方法

メニュー1. 「家庭内の絵」を用いた事故防止指導

指導方法	指導時のポイント
3. 「家庭内の絵」を見ながら保護者に危険箇所を指摘してもらう。	<p>*保護者を一方的に指導するのではなく、保護者に「家庭内の絵」を見てもらい、危険箇所を指摘してもらいながら、子どもの安全な環境について互いに話し合い考えてもらう参加型の指導を行っていく。</p> <p>*事件事例などを交えて、具体的な防止方法などの意見を引き出し、話し合ってもらおう。</p>
(i)居間	<p>誤飲・・・テーブルの上のクリップやコイン (A)、タバコや灰皿 (B)、ボタン電池 (C)</p> <p>やけど・・・アイロン (D)、ストーブ (E)、コーヒーカップ (F)</p> <p>窒息・・・ベビーベッドとマットのすき間 (G)、ぬいぐるみ (H)</p> <p>転落・・・ソファ (I)、ベッドの柵 (J)</p> <p>感電・・・コンセント (K)</p> <p>はさむ・・・ドア (L)、ビデオデッキの出入口 (M)、ビデオの収納台の扉 (N)、</p> <p>切創・・・はさみ (O)</p> <p>転倒・・・テーブルの角 (P)</p>
(ii)洗面所・浴室	<p>誤飲・・・洗剤 (A)、化粧品 (B)</p> <p>溺水・・・浴槽 (C)、椅子 (D)、洗面器 (E)、洗濯機 (F)</p> <p>転倒・・・浴室の床 (G)</p> <p>切創・・・カミソリ (H)</p> <p>やけど・・・蛇口 (I)</p> <p>はさむ・・・ドア (J)</p>
(iii)ベランダ	<p>転落・・・クーラーボックス (A)、植木鉢 (B)、ポリタンク (C)</p> <p>窒息・・・カーテンの紐 (D)</p> <p>はさむ・・・引き戸 (E)</p>
(iv)台所・食堂	<p>やけど・・・コンロ (A)、コンロの上の鍋ややかん (B)、食卓の上のラーメン・味噌汁・コーヒー (C)、ポット (D)、炊飯器の蒸気口 (E)、テーブルクロスを引っ張る (F)</p> <p>切傷・・・包丁 (G)</p> <p>打撲・・・ビンが床に落ちる (H)</p> <p>窒息・・・スーパーの袋 (I)</p> <p>誤飲・・・洗剤 (J)、薬 (K)</p>

(v) 玄関・階段	転落・・・玄関の段差 (A)、階段 (B) 転倒・・・じゅうたん (C)
-----------	---

メニュー2. 「事故防止の必要性」のリーフレットおよび「事故防止のポイント」のリーフレットを使用した指導

指導方法	指導時のポイント
5. 「事故防止の必要性」のリーフレットを用いて指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> * 多くの子どもが事故により医療機関を受診しているため、事故にあわないための防止方法を知っておくことが必要であることを知らせる。 * 事故を経験した保護者の80%以上が少しの気配りで防止が可能だったと答えているため、大部分の事故は少しの気配りで防げることを説明する。 * 事故は子どもの発達と密接な関係があるため、子どもの発達と事故について知識を得て対応することが必要であることを理解してもらう。
6. 「事故防止のポイント」のリーフレットを用いて指導する。	<ul style="list-style-type: none"> * その時期に必要な主な事故とその防止法が書いてあるので、気配りが不足しがちな項目や重大な事故につながる項目は、事例を挙げて説明を行う。 * 家庭にリーフレットを持ち帰ったら、父親や祖父母などにも確認をしてもらうよう促す。 * 指導時間などにより、詳細な説明が行えない場合は、帰宅後リーフレットは必ず目を通し、自身で項目ごとに確認をすることを勧める。

メニュー3. 「安全チェックリスト」を用いた事故防止指導

指導方法	指導時のポイント
1. 保護者が「安全チェックリスト」の記入を行う。	<ul style="list-style-type: none"> * 「安全チェックリスト」はその時期に起こる主な事故とその防止方法が記載されているため、各項目に保護者の事故防止について気配りが低い場合は右側に印がつくように作成されているため、気配りが不足している項目が一目でわかる。 * 安全チェックリストへの記入方法には (i) 自宅、(ii) 会場、(iii) 帰宅後の3つの方法があるので、実施しやすい方法での記入を依頼する。
記入方法	

<p>(i) 事前に自宅で記入</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 予約時「安全チェックリスト」を事前に配布し、自宅で記入してもらい、健診会場へ持参してもらう。 * この方法は、事故防止について十分考えながら記入することができるので、指導時間を有効に使用できるので望ましい。
<p>(ii) 当日会場で記入</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 事前に「安全チェックリスト」を配布できなかった場合、待ち時間等を利用し記入してもらう。 * この方法は、チェック項目について十分考えながら記入できない点などがあり、会場での記入を行う場合には記入しやすい環境設定の配慮が必要である。
<p>(iii) 帰宅後、自宅で記入</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 教室時に記入することができない場合、教室後自宅でチェックを行い、気配りが不足している項目を把握し、事故防止に努めてもらうように促す。 * この方法は、チェック結果（個々の事故防止の不足項目）が会場での指導に活かさない欠点がある。
<p>2. 「事故防止の必要性」のリーフレットを用いて指導する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 多くの子どもが事故により医療機関を受診しているので、事故にあわないための防止方法を知っておくことが必要であることを知らせる。 * 事故を経験した保護者の 80%以上が少しの気配りで防止が可能だったと答えているので、大部分の事故は少しの気配りで防げることを説明する。 * 事故は子どもの発達と密接な関係があるので、子どもの発達と事故について知識を得て対応することが必要であることを理解してもらう。
<p>3. 保護者が記入した「安全チェックリスト」を基に、事故防止の気配りが不足している項目を「事故防止のポイント」のリーフレットを用いて指導を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 「事故防止のポイント」のリーフレットはその時期までに起こる主な事故とその防止法が書いてあるので、「安全チェックリスト」を実施した結果、気配りが不足していた項目や重大な事故につながる項目は、事例を挙げて防止方法の説明を行う。 * 家庭にリーフレットを持ち帰ったら、父親や祖父母などにも確認をしてもらうよう促す。

	<p>*時間が余りとれない場合は、「安全チェックリスト」を実施した結果、気配りが不足していた項目に対応する「事故防止のポイント」のリーフレットの解説部分に印を付けるなどして、帰宅後必ず読んで事故防止に配慮してもらうよう指導する。</p> <p>*「安全チェックリスト」を帰宅後に記入を行う場合は、「事故防止のポイント」を全般的に指導し、帰宅後自己学習してもらうよう指導する。</p>
--	---

3) 指導意義と課題

育児教室、子育てサロンに参加することにより、仲間づくりや子育てに関する知識の習得をしたいという保護者の意欲を汲み取りながら事故防止の指導を行うとよい。

メニュー1は、他の事故防止のプログラムが保健師などより指導されるものであるが、この方法は保護者自身が参加し、事故防止について自身で考えるように作られた事故防止プログラムである。

絵を見ながら、保護者自身が互いに家庭内の子どもにとって危険箇所や状況を指摘し、事故を防止するためにどうすればよいかを参加者で話し合うもので、自分達で考える点が他の方法と異なる。すでに、子育て経験のある人が参加していれば、事故の体験談を話してもらうとよい。

話し合いがうまくいくように担当者がファシリテーター（推進役・世話人）として誘導し、絵の中に保護者が気付かない危険箇所や状況があれば追加して説明するとよい。

上記のメニュー以外にも、会場に事故防止の啓発パネル、事故を防止するための安全グッズの展示や事故防止のビデオの放映などを併用して行う方法もある。